

国道200号バイパスが走りぬける勢田(旧穎田町)にある大平山(おおひらやま)は、合併で市有地になったばかり。もともとは地元保有でした。この山林を飯塚市が、地元の反対を押し切って売却しようとしています。強引なやり方の背景に何があるのでしょうか。

もともと地元所有だった旧穎田町勢田の市有地

売却を進めるきっかけは、「開発行為の打診があったこと」と市はいいます。面積は9万平方メートル。配水池や墓地を除く市有地の大半です。価格は、1億2千万から1億5千万円とみられます。購入業者は、山をくずし真砂土を販売すれば、莫大な利益になります。地元の下勢田地区(約70戸)は、急傾斜の南側にあり、大平山からの水が集まります。7・19大水害では、家屋や水田が浸水、がけ崩れも各所で起きました。開発による災害が心配されるのは当然です。

7・19大水害被災の実情も調べず売却をこり押しするのはなぜか

旧穎田町航空写真より。白線で囲んだ部分を売却。

国道200号沿いの9万平米

大平山の民間売却やめ、山林保全を

市有地売却に関する市の規則には、「公共の福祉に適合すると共に、財政の運営にも寄与するように総合的に考慮しておこなわなければならない」(公有財産管理規則第32条)とあります。「お金になればいい」というわけではありません。

ところが地元への説明で市は、「どんな開発になるかわからない」「災害対策は業者が、法律にもとづいて何とかする」とくりかえしています。

「裁判も辞さない」との反対意見にも市は、売却を進める姿勢をくずしていません。市の強硬な姿勢の背後にあるのは、市の財政事情ばかりではなさそうです。

日本共産党市議団は、不透明な部分にメスを入れ、大平山を守るために、地域のみなさんと力を合わせます。

経過(2007年)

- 11月 市に業者から開発計画の打診
- (2008年)
- 6月 管財課が売却を決定
- 9月 測量実施
- 10月 上下水道局と協議
- 11月 不動産鑑定を実施
- 11-12月 地元自治会長に説明
- 12月 地元説明会で反対多数(3日)
- (2009年)
- 1月 地元説明会
- 1月 地元に住む市職員にだけ説明会
- 2月 地元説明会
- 2月 市議会総務委員会(10日)